



研修医への指導方法を視察するモンゴルのバータル医師（右から3人目）ら＝徳島市の徳島大学病院

卒後研修 指導法学ぶ

モンゴル医師ら 徳大病院を視察

モンゴルの医師や看護婦ら4人が7日、徳島市の徳島大学病院で研修プログラムを視察し、研修医への指導方法などを学んだ。

内科や産婦人科などの指導医が、回診や検査を通じて研修医に指導する様子を見学。その後、医師やリハビリ担当者らが患者の治療方針などを話し合う「カンファレンス」も傍聴した。

首都ウランバートルの公立病院で小児外科部長を務めるバータル・バヤンムンフ医師（30）は「研修医と常にコミュニケーションを取る大切さが分かった。非常に勉強になった」と話した。

バータル医師らは、モンゴルで10月から卒後臨床研修制度が導入されるのを受け、8月27日から9月7日まで徳島大学病院の取り組みを視察するなどしていた。

（山口和也）